

SD法による過疎イメージの分析

秋田高専 正 員 折田 仁典
秋田高専 学生員 ○備前 亨

1. はじめに

昭和40年代前半頃から社会問題化した過疎問題に対しては、今日までの約20年間にわたり諸々の対策が講じられてきた。しかしながら、十分な効果をあげるには至らず、全国総市町村3254のうち1158の市町村が過疎法の指定を受けている現状をみると、問題の複雑さ、解決の困難さがうかがえる。この問題は複雑な要因から構成されており、更に、これら要因は互いに負の要因として働き、地域イメージをも下降させている。このイメージの悪さは若者の地元からの流出、嫁ききん、果ては地域住民の「やる気」さえも欠如させ、地域の振興、活性化という面において、多大なるデメリットとなっている。本研究はこの過疎イメージの構造分析を行い、今後の過疎問題対策の一指針を与えようとするものである。

2. 解析手法および調査

景観、イメージ研究などが解析対象とする心理的空間には「知覚空間」と「印象空間」とがある。本研究で取り扱う「空間」は、過疎地域で生活する人々が自らの地域についてどのようなイメージを持っているかを分析することにより過疎イメージを把握しようとするものであるから、視覚的に捉える「知覚空間」ではなく、人間の記憶、印象から形成される空間、すなわち「印象空間」である。この過疎イメージの分析には言語心理学の分野でオスグットが考案し、現在、景観の分析などに広く用いられているSD法(Semantic Differential Method)を適用した。調査は昭和62年12月に実施した。調査対象とした過疎地域は秋田県東成瀬村および増田町の2地域である。これら2地域は著者らの研究から、前者は「閉鎖型過疎地域」、後者は「地域間接続型過疎地域」として分類されており、その地域特性は異なっている。しかしながら、両地域ともに「過疎法」の指定を受け、人口減少に伴う諸問題の解決が大きな課題である点では共通性を持っている。

3. 過疎イメージの評価尺度

過疎イメージの評価尺度の設定およびコンセプトの確定のため、本調査を実施する前に、いくつかの過疎地域においての過疎問題に関するヒヤリングを行った。解析にはKJ法を用い、過疎イメージを創造することに深い関係を持つと思われる次の7つのコンセプトが確定した。すなわち、(1) 公共、生活施設 (2) 公共交通機関 (3) 産業 (4) 人間性 (5) 自然環境 (6) 道路施設 (7) 地域の中心地(商店街)である。次に、これらのコンセプトに対して形容詞対を作成した。作成ではまず既存の研究、過疎地域でのヒヤリング調査等から100対の形容詞を選び出し、これを50名の被験者に対して、対極性確認調査を実施した。ここで、形容詞間の類似性、形容詞のもつ意味などからも検討を加え、できるだけ価値判断を含む形容詞対を選定した。各コンセプトに共通した12の形容詞対を設け、更にそれぞれのコンセプトに特に関係のあると思われる形容詞対を3〜7個付加した。これは、各コンセプト固有のイメージを知ると同時に、それらのコンセプト全体から形成される過疎のイメージをも分析しようとするためである。評価尺度は、「非常に」、「かなり」、「やや」、「どちらともいえない」の7段階とした。(図-1参照)なお、単刀直入に「地域全体のイメージは?」という質問も付加しておいた。また、諸々の過疎問題と過疎のイメージとの関係を分析するため、ヒヤリング調査から図-2に示すような24項目の問題を抽出、設定した。

4. 分析結果

4. 1 過疎のイメージ

2地域別に各コンセプトについて分析を行なったところ、2地域で若干の差異はみられたが、ほぼ同じような傾向を示した。各コンセプトと関係が深い形容詞対を評定スコアの平均値を用いて検討したところ次のようであった。すなわち、「公共、生活施設」→「不便な」、「公共交通」→「不便な」、「

産業」→「テンポが遅い」、「人間性」→「親しみやすい」、「道路施設」→「テンポが遅い」「中心地」→「テンポが遅い」、などとなっている。各コンセプトに共通した形容詞対としては「不便な」、「テンポが遅い」、「保守的な」などが挙げられる。

図-1は「地域全体のイメージ」を19対の形容詞対を用い、自分の住んでいる地域の過疎認識度合別に分析した結果である。これを見ると、「非常に過疎だと思う」グループの各形容詞対に対する評価尺度の値は、他の「かなり過疎だと思う」、「やや過疎だと思う」グループに比べて高く、「テンポが遅い」、「不便な」、「老けた」、「さみしい」、「暗い」の形容詞対で顕著である。このことから「過疎イメージ」はこれらの言葉で表現されるといえる。

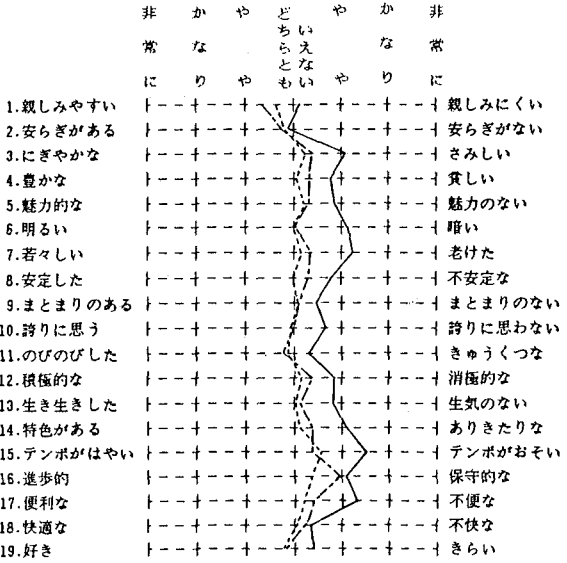


図-1 過疎イメージの分析結果

4. 2 過疎問題と過疎イメージ

具体的に起こっている過疎問題と過疎イメージとの関係を分析した。図-2はその結果である。これを見ると、「過疎イメージ」形成に結びつきが深いのは「雇用の問題」「所得の問題」、「嫁ききん」、「教育問題」、「医療施設の未整備」等であり、「伝統行事の休廃止」、「田・畑・山林の管理」等の問題は「過疎イメージ」とはあまり結びついていないようである。

5. まとめ

本研究は印象空間としての「過疎イメージ」を分析したものであるが、分析からはいくつかの興味ある結果が得られた。今後は、過疎問題とイメージとの関係をさらに詳しく分析するつもりである。

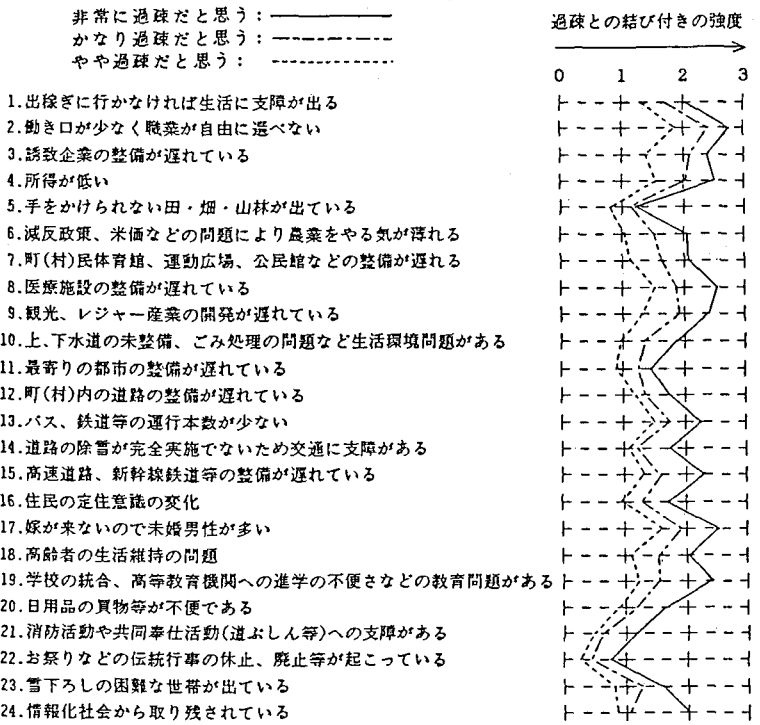


図-2 過疎問題と過疎との結びつき

(参考文献)
岩下 豊彦：SD法によるイメージの測定、川島書店
木村 宣幸：「地方都市」に対する市民イメージの構造化について、都市計画学会学術研究論文集 第22号 P.277-288